

# 四半期報告書

(第50期第3四半期)

キーウェアソリューションズ株式会社

---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

	頁
【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	2
第2 【事業の状況】 .....	3
1 【事業等のリスク】 .....	3
2 【経営上の重要な契約等】 .....	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	3
第3 【提出会社の状況】 .....	6
1 【株式等の状況】 .....	6
2 【役員の状況】 .....	7
第4 【経理の状況】 .....	8
1 【四半期連結財務諸表】 .....	9
2 【その他】 .....	20
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	21

四半期レビュー報告書

確認書

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成27年2月13日

**【四半期会計期間】** 第50期第3四半期(自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日)

**【会社名】** キーウェアソリューションズ株式会社

**【英訳名】** Keyware Solutions Inc.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 三田 昌弘

**【本店の所在の場所】** 東京都世田谷区上北沢5丁目37番18号

**【電話番号】** 03-3290-1111(代表)

**【事務連絡者氏名】** 経営管理部長 笹原 茂男

**【最寄りの連絡場所】** 東京都世田谷区上北沢5丁目37番18号

**【電話番号】** 03-3290-1111(代表)

**【事務連絡者氏名】** 経営管理部長 笹原 茂男

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第49期 第3四半期 連結累計期間	第50期 第3四半期 連結累計期間	第49期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (千円)	12,056,469	11,320,859	17,200,823
経常利益又は経常損失(△) (千円)	229,209	△463,185	367,732
四半期(当期)純利益 又は四半期純損失(△) (千円)	240,804	△532,034	240,831
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	256,717	△443,196	248,575
純資産額 (千円)	5,767,849	5,252,014	5,764,716
総資産額 (千円)	9,678,663	9,984,375	9,424,109
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は四半期純損失金額(△) (円)	28.91	△64.93	29.06
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	59.6	52.6	61.2

回次	第49期 第3四半期 連結会計期間	第50期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	13.97	4.21

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)において営まれている事業の内容に、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について、重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費増税前の駆け込み需要の反動による減少が一部業種で続き、さらに急速な円安・ドル高、原油安による企業の先行き不透明感が強まる中、政府の経済政策などにより景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

情報サービス産業におきましては、本年1月に経済産業省が発表した平成26年11月の特定サービス産業動態統計(速報)によれば、11月の売上高は前年同月比3.9%増と一昨年8月から16ヵ月連続で前年同月比の増加が続いております。また、売上高全体の半分を占める「受注ソフトウェア」も、大手企業が収益の堅調を背景に情報化投資を進めており、前年同月比1.1%増と一昨年11月以降13ヵ月連続で増加しております。一方で、クラウドサービスの普及などによる競争の激化などにより、収益環境の厳しい状況が続いております。

当社グループは、このような事業環境のもと、受注、売上高の拡大および収益の向上に努めました。その結果、第2四半期連結累計期間に比べ改善がはかれたものの、見込んでいた大型案件の失注や延期・凍結の発生により、受注、売上高は前年同期を下回る結果となりました。また、損益面につきましては、受注、売上高が軟調であったことの影響に加え、競争の激化により採算性が低下したことから、同様に前年同期を下回る結果となりました。

以上のような状況により、当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は、受注高は11,566百万円(前年同四半期比1,156百万円減、9.1%減)、売上高は11,320百万円(同735百万円減、6.1%減)、営業損失は449百万円(前年同四半期は274百万円の利益)、経常損失は463百万円(前年同四半期は229百万円の利益)、四半期純損失は532百万円(前年同四半期は240百万円の利益)となりました。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。

#### ① コンピュータソフトウェアの開発を受託して行う事業

##### a. 公共システム開発事業

受注高は2,672百万円(前年同四半期比665百万円減、19.9%減)、売上高は2,753百万円(同783百万円減、22.2%減)、営業損失は129百万円(前年同四半期は45百万円の利益)となりました。

官庁、通信系の継続案件の規模縮小をカバーできず、受注、売上高が前年同期を下回る結果となりました。損益面においては、売上高の減少に加え、前年に受注した低採算案件の影響により、営業損失を計上する結果となりました。

##### b. ネットワークシステム開発事業

受注高は1,590百万円(前年同四半期比38百万円減、2.4%減)、売上高は1,435百万円(同57百万円増、4.2%増)、営業利益は11百万円(同64百万円減、84.5%減)となりました。

監視制御系において受注、売上高ともに堅調に推移いたしました。しかしながら、宇宙系案件の規模縮小および当初見込んでいた設備監視系案件の失注などにより、受注高は前年同期を下回る結果となりました。損益面においては、監視制御系案件が好調であったものの、前年に受注した低採算案件の影響により、前年同期を下回る結果となりました。

② お客様の経営課題を解決するための経営とITの統合コンサルティングからシステム開発・運用・保守に至る各フェーズで最適な情報技術を請け負う事業

a. システムインテグレーション事業

受注高は1,617百万円(前年同四半期比230百万円減、12.5%減)、売上高は1,469百万円(同74百万円減、4.8%減)、営業損失は279百万円(前年同四半期は50百万円の利益)となりました。

広告システム案件の新規獲得はあったものの、運輸、流通系分野において、受注、売上高ともに前年同期を下回る結果となりました。損益面においては、上期に発生した運輸、流通系の不採算案件の影響をカバーできず、営業損失を計上する結果となりました。

b. ITサービス事業

受注高は2,786百万円(前年同四半期比340百万円減、10.9%減)、売上高は2,882百万円(同118百万円減、3.9%減)、営業損失は46百万円(前年同四半期は142百万円の利益)となりました。

ERP系およびインフラ構築系案件の新規獲得に積極的に取り組んでまいりましたが、継続案件の規模縮小をカバーできず、受注、売上高ともに前年同期を下回る結果となりました。損益面においては、売上高の減少に加え、厳しい市場環境により想定した収益の確保ができず、営業損失を計上する結果となりました。

c. サポートサービス事業

受注高は521百万円(前年同四半期比175百万円減、25.1%減)、売上高は545百万円(同137百万円減、20.1%減)、営業損失は27百万円(前年同四半期は8百万円の損失)となりました。

サービスデリバリ系の案件が大幅に減少したことにより、受注、売上、利益ともに前年同期を下回る結果となりました。

③ その他

拠点として地域性をもち独立した経営単位のセグメント、および報告セグメントに含まれない機器販売等があります。

受注高は2,378百万円(前年同四半期比293百万円増、14.1%増)、売上高は2,234百万円(同320百万円増、16.7%増)、営業利益は15百万円(同80百万円減、83.9%減)となりました。

北海道地区および九州地区において新規案件獲得に積極的に取り組んだ結果、受注、売上高ともに前年同期を上回る結果となりました。損益面においては、市場競争が依然厳しく、前年同期を下回る結果となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における資産、負債及び純資産の状況は以下のとおりであります。

① 流動資産

流動資産残高は5,932百万円(前連結会計年度末比498百万円増、9.2%増)となりました。主な増減要因は、現金及び預金の増加、受取手形及び売掛金の減少、仕掛品の増加であります。

② 固定資産

固定資産残高は4,051百万円(前連結会計年度末比61百万円増、1.5%増)となりました。主な増加要因は、ソフトウェア仮勘定の増加であります。

③ 流動負債

流動負債残高は3,669百万円(前連結会計年度末比1,250百万円増、51.7%増)となりました。主な増加要因は、短期借入金の増加であります。

④ 固定負債

固定負債残高は1,062百万円(前連結会計年度末比177百万円減、14.3%減)となりました。主な減少要因は、長期借入金の減少であります。

⑤ 純資産

純資産残高は5,252百万円(前連結会計年度末比512百万円減、8.9%減)となりました。主な減少要因は、四半期純損失の計上による利益剰余金の減少であります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

##### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	36,440,000
計	36,440,000

##### ② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	9,110,000	9,110,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は100株であります。
計	9,110,000	9,110,000	—	—

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年12月31日	—	9,110,000	—	1,737,237	—	507,237

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成26年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 607,500	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,501,500	85,015	—
単元未満株式	普通株式 1,000	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	9,110,000	—	—
総株主の議決権	—	85,015	—

(注) 「従業員持株会信託型E S O P」の信託財産(所有者名義「日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)」)298,600株(議決権の数2,986個)は、「完全議決権株式(その他)」の欄に含めております。

② 【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) キーウェアソリューションズ株式会社	東京都世田谷区上北沢5丁目37-18	607,500	298,600	906,100	9.95
計	—	607,500	298,600	906,100	9.95

(注) 他人名義で所有している自己株式の名義人、住所及びその理由等は次のとおりであります。

名義人：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)

住 所：東京都中央区晴海1丁目8-11

理由等：「従業員持株会信託型E S O P」の信託財産として所有のため

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成26年10月1日から平成26年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	734,159	1,014,198
受取手形及び売掛金	4,010,870	3,772,412
有価証券	99,860	-
商品及び製品	170,003	160,930
仕掛品	147,927	728,277
その他	274,585	259,886
貸倒引当金	△3,674	△3,029
流動資産合計	5,433,731	5,932,676
固定資産		
有形固定資産	134,868	131,954
無形固定資産		
のれん	551,327	522,066
その他	436,898	542,803
無形固定資産合計	988,225	1,064,869
投資その他の資産		
投資有価証券	2,694,402	2,674,504
その他	174,579	182,068
貸倒引当金	△1,698	△1,698
投資その他の資産合計	2,867,283	2,854,874
固定資産合計	3,990,377	4,051,698
資産合計	9,424,109	9,984,375

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	850,779	891,736
短期借入金	-	1,200,000
1年内返済予定の長期借入金	310,000	310,000
未払法人税等	58,300	6,073
賞与引当金	505,536	263,460
受注損失引当金	7,674	36,515
その他	686,451	961,717
流動負債合計	2,418,742	3,669,503
固定負債		
長期借入金	1,126,672	945,319
資産除去債務	94,341	96,698
その他	19,636	20,838
固定負債合計	1,240,650	1,062,857
負債合計	3,659,393	4,732,360
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,737,237	1,737,237
資本剰余金	507,237	507,237
利益剰余金	3,828,458	3,193,614
自己株式	△332,860	△299,555
株主資本合計	5,740,072	5,138,533
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	24,643	28,307
退職給付に係る調整累計額	-	85,173
その他の包括利益累計額合計	24,643	113,480
純資産合計	5,764,716	5,252,014
負債純資産合計	9,424,109	9,984,375

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	※1 12,056,469	※1 11,320,859
売上原価	9,891,215	9,903,642
売上総利益	2,165,253	1,417,216
販売費及び一般管理費	1,890,978	1,866,626
営業利益又は営業損失(△)	274,275	△449,409
営業外収益		
受取利息	2,919	2,868
受取配当金	2,164	2,169
受取報奨金	360	8,055
助成金収入	5,271	13,613
持分法による投資利益	10,100	—
その他	5,395	11,612
営業外収益合計	26,210	38,318
営業外費用		
支払利息	28,943	21,896
支払手数料	39,983	15,321
持分法による投資損失	—	13,155
その他	2,348	1,720
営業外費用合計	71,275	52,093
経常利益又は経常損失(△)	229,209	△463,185
特別利益		
事業譲渡益	27,694	—
特別利益合計	27,694	—
特別損失		
投資有価証券評価損	—	2,290
特別損失合計	—	2,290
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	256,904	△465,475
法人税等	16,100	66,558
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	240,804	△532,034
四半期純利益又は四半期純損失(△)	240,804	△532,034

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	240,804	△532,034
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	15,493	1,489
持分法適用会社に対する持分相当額	420	87,347
その他の包括利益合計	15,913	88,837
四半期包括利益	256,717	△443,196
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	256,717	△443,196
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	
(「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」の適用)	
1. 当該会計基準等の名称	「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成25年12月25日)
2. 当該会計方針の変更の内容	<p>第1四半期連結会計期間から適用しておりますが、従業員向けインセンティブ・プラン「従業員持株会信託型E S O P」(以下「E S O P信託」という)の契約締結日が平成25年8月19日付けであることから、当該実務対応報告第20項に掲げる定めにより、会計処理は従来から採用していた方法によっており、その内容は次のとおりであります。</p> <p>E S O P信託による当社株式の取得および売却については、当社がE S O P信託の債務を保証しており、経済的実態を重視し、当社とE S O P信託は一体であるとする会計処理を行っております。したがって、E S O P信託が所有する当社株式については、四半期連結財務諸表において自己株式として処理しております。また、E S O P信託が当該信託契約に基づき市場から取得した当社株式について、売却差損益、受取配当金など当社株式の取引、所有に係る収支の純額を損失の場合は資産、利益の場合は負債として四半期連結貸借対照表に計上し、信託報酬などE S O P信託の運用に係る諸費用を営業外費用として四半期連結損益計算書に計上しております。</p>
3. 当該会計方針の変更による影響額	<p>(1) 税金等調整前四半期純損益に対する前連結会計年度の対応する四半期連結累計期間における影響額 影響はありません。</p> <p>(2) その他の重要な項目に対する影響額 影響はありません。</p>

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する情報)
<p>当社は、当社グループの従業員に対する福利厚生制度を拡充するとともに、株価上昇へのインセンティブ付与により従業員の経営参画意識を一層高め、当社の中長期的な企業価値の向上を図ることを目的として、従業員向けインセンティブ・プラン「従業員持株会信託型E S O P」(以下「E S O P信託」という)を導入しております。</p>
<p>1. 取引の概要</p> <p>E S O P信託は、当社が「キーウェアソリューションズ従業員持株会」(以下「当社持株会」という)に加入する当社および当社の子会社の従業員のうち一定要件を充足するものを受益者として設定した信託であり、当社株式を活用した従業員の財産形成制度の拡充(福利厚生制度の拡充)を目的としたものをいいます。</p> <p>E S O P信託は、今後数年間にわたり当社持株会が取得すると見込まれる数の当社株式を、あらかじめ定める取得期間中に取得し、その後、取得した当社株式を毎月一定日に当社持株会に時価で売却します。信託終了時点でE S O P信託内に株価上昇等による信託収益がある場合は、受益者である従業員に、抛割割合に応じて金銭が分配されます。なお、株価の下落等により債務が残る場合には、E S O P信託の株式取得に係る借入金に対する損失補償契約に基づき、補償人である当社が補償履行するため、従業員の追加負担はありません。</p>
<p>2. 「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成25年12月25日)を適用しておりますが、当該実務対応報告第20項に掲げる定めにより、従来から採用していた方法により会計処理を行っております。なお、会計処理については、「会計方針の変更等」に記載のとおりであります。</p>
<p>3. 信託が保有する自社株式に関する事項</p> <p>① E S O P信託が保有する自社株式の期末帳簿価額は、前連結会計年度173,649千円、当第3四半期連結会計期間140,344千円であります。</p> <p>② E S O P信託が保有する自社の株式は、株主資本において自己株式として計上しております。</p> <p>③ E S O P信託が保有する自社株式の期末株式数は、前第3四半期連結累計期間346,000株、当第3四半期連結累計期間271,800株であり、期中平均株式数は、前第3四半期連結累計期間173,769株、当第3四半期連結累計期間308,449株であります。</p> <p>④ E S O P信託が保有する自社株式の期末株式数および期中平均株式数は、1株当たり情報の算出上、控除する自己株式に含めております。</p>

(四半期連結損益計算書関係)

※1 売上高の季節的変動

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

当社および当社の連結子会社は、請負契約を除く受注の売上高計上基準として、主として「検収基準」を採用しており、事業の性質上第4四半期連結会計期間にこれらの検収が集中する傾向にあります。このため、当社および当社の連結子会社の売上高は、第4四半期連結会計期間に著しく増加し、業績に季節的変動が生じます。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)およびのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
減価償却費	92,415千円	66,510千円
のれんの償却額	29,260千円	29,260千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月14日 取締役会	普通株式	85,024	10.00	平成25年3月31日	平成25年6月11日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

(「従業員持株会信託型E S O P」の導入)

第2四半期連結会計期間から導入いたしました「従業員持株会信託型E S O P」の信託契約に基づき自己株式の取得および売却を行っており、当第3四半期連結累計期間における取得による増加が189,965千円(367,900株)、売却による減少が11,308千円(21,900株)となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が178,657千円(346,000株)増加しており、当第3四半期連結会計期間末における自己株式は337,869千円(953,599株)となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月14日 取締役会	普通株式	85,024	10.00	平成26年3月31日	平成26年6月10日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I. 前第3四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					計
	公共システム 開発事業	ネットワーク システム開発 事業	システムイン テグレーション 事業	I Tサービス 事業	サポートサー ビス事業	
売上高						
外部顧客への売上高	3,536,940	1,378,418	1,543,387	3,000,662	682,374	10,141,783
セグメント間の内部売上高 又は振替高	74,861	560	13,129	99,557	268,418	456,526
計	3,611,801	1,378,978	1,556,517	3,100,220	950,792	10,598,309
セグメント利益又は損失(△)	45,002	76,890	50,414	142,134	△8,074	306,367

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 3
売上高				
外部顧客への売上高	1,914,685	12,056,469	—	12,056,469
セグメント間の内部売上高 又は振替高	455,720	912,246	△912,246	—
計	2,370,405	12,968,715	△912,246	12,056,469
セグメント利益又は損失(△)	96,123	402,491	△128,216	274,275

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、拠点として地域性をもつ独立した経営単位のセグメントおよび機器販売等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△128,216千円は、セグメント間取引消去△901千円および各報告セグメントに配分していない全社費用等の影響額△127,314千円を含んでおります。全社費用等は、報告セグメントに帰属しない全社の一般管理費等であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ. 当第3四半期連結累計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					計
	公共システム 開発事業	ネットワーク システム開発 事業	システムイン テグレーション 事業	I T サービス 事業	サポートサー ビス事業	
売上高						
外部顧客への売上高	2,753,340	1,435,782	1,469,243	2,882,399	545,218	9,085,984
セグメント間の内部売上高 又は振替高	47,682	—	7,511	93,693	267,435	416,322
計	2,801,023	1,435,782	1,476,754	2,976,092	812,653	9,502,306
セグメント利益又は損失(△)	△129,420	11,900	△279,342	△46,522	△27,860	△471,245

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 3
売上高				
外部顧客への売上高	2,234,874	11,320,859	—	11,320,859
セグメント間の内部売上高 又は振替高	318,838	735,160	△735,160	—
計	2,553,713	12,056,020	△735,160	11,320,859
セグメント利益又は損失(△)	15,469	△455,775	6,365	△449,409

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、拠点として地域性をもつ独立した経営単位のセグメントおよび機器販売等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額6,365千円は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額 又は1株当たり四半期純損失金額(△)	28円91銭	△64円93銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 又は四半期純損失金額(△)(千円)	240,804	△532,034
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額 又は四半期純損失金額(△)(千円)	240,804	△532,034
普通株式の期中平均株式数(株)	8,328,647	8,193,952

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 2. 株主資本において自己株式として計上されている「従業員持株会信託型E S O P」が所有する自社の株式は、1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額(△)の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。  
 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額(△)を算定する際に控除した当該自己株式の期中平均株式数は、前第3四半期連結累計期間においては173,769株であり、当第3四半期連結累計期間においては308,449株であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年2月13日

キーウェアソリューションズ株式会社  
取締役会 御中

**新日本有限責任監査法人**

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	由	良	知	久	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	前	田	隆	夫	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているキーウェアソリューションズ株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

**四半期連結財務諸表に対する経営者の責任**

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

**監査人の責任**

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

**監査人の結論**

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、キーウェアソリューションズ株式会社及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

**利害関係**

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

**【表紙】**

**【提出書類】** 確認書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の8第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成27年2月13日

**【会社名】** キーウェアソリューションズ株式会社

**【英訳名】** Keyware Solutions Inc.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 三田 昌弘

**【最高財務責任者の役職氏名】** 該当事項はありません。

**【本店の所在の場所】** 東京都世田谷区上北沢5丁目37番18号

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長三田昌弘は、当社の第50期第3四半期(自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。